

授業のワークシート	年 組 番
	名前 ( )

1. 【②-1-4 水害から自分の命を守るための行動】を思い出してみましょう。…【導入】  
→ 「情報の集め方」と「避難時の行動」を振り返る。

【本時の課題】

水害に備えて、「避難する時に気をつける場所」について考えよう。

2. 【②-2-1 避難ルートのイラスト】を見て考えましょう。…【展開Ⅰ】グループワーク①



→ 避難するときにどんな場所を通ってはいけないのかを考える。  
※ イラストを用いることで、他の地域のどこにいても対応できるように、一般化して考えさせる。

- 避難する時に「どんな場所」が「なぜ危険なのか」理由も考えて書いてみましょう。

水があふれそうな場所、土砂くずれが起きそうな場所、

---

水につかっている場所、水がつかりそうな場所。

---

3. 【②-2-3 防災マップ】で自分の地域の避難所を調べてみましょう。…【展開Ⅱ】



注：【防災マップ】には、対象河川（石狩川、天塩川および主な支川）のみの洪水浸水想定区域が示されており、それ以外の中小河川の洪水浸水想定区域は反映されていないので、注意が必要です。

4. 【②-2-4 川があふれたときの水深】や【②-2-5 水深がわかる実物大イラスト】を見て考えましょう。…【展開Ⅱ】グループワーク②



※ 地域の情報を用いることで、身近な場所で、大雨のときに危険になりうる場所を学ぶ。

- 50cmの水がまちなながれこんだら、どんなことが起こると思いますか？

道を歩きにくくなる。道を通れなくなる。

---

→ 自分の地域で災害時にどうなるか（浸水深）を知り、実際の災害時にどんな危険があるかを考える。

5. 【②-2-6 水の力の映像】を見てみましょう。…【展開Ⅲ】

【②-2-7 命を守る防災教育イラスト】を見せて解説する。



→ 川から溢れた水はにごって足元が見えないこと、流れがあり歩きにくくなること、水深があるところではドアが開かなくなることなど、大雨時に危険なことを理解できるようにする。

【学んだこと】…【終末】

今日の授業で学んだことを、キーワードを使ってまとめましょう。

【キーワード：大雨、川の水、避難】

例：水害が起きるとまちが水につかたり、いつも通る道が通れなくなったりするかもしれないことがわかった。大雨が降り続いた時は、自分の命を守るために、川の水があふれる前に避難する。

⇒ このように、早めに避難するなど、自分で自分の身を守ることを、

（ 自 助 ） といいます。